

# 野研びより

鳥編 8号

野生生物生態調査研究部 鳥班

2017年11月



©2017 YAKEN

ムクドリ (椋鳥) *Spodiopsar cineraceus*

スズメ目 ムクドリ科

全長：24cm

時期：留鳥・漂鳥

(北海道では夏鳥)

分布：全国

図1

草むらを歩くムクドリ

(2017年3月宮崎大学牛舎前撮影)

## ～留鳥・漂鳥とは？～

留鳥とは年間を通して同じ場所に生息し、季節による移動をしない鳥のこと。

漂鳥とは暑さや寒さを避けるために日本国内を比較的短距離移動する鳥のこと。

定期的に長距離を移動する鳥は渡り鳥と言う。

## ◆ 形態

オレンジ色のくちばしと足、白い頬が特徴<sup>1)</sup>。オスは胸や腹・背が黒っぽく、コントラストがある。メスは全体的に褐色。大きさはスズメとハトの間くらい。飛んでいるときは腰の白い部分がよく目立つ<sup>2)</sup>。

## ◆ 鳴き声

地鳴きは「リャーリャー」「ジェー」と鳴くが、「キュルッ、キュルッ」「キュリリッ」というさえずりをすることも<sup>1)</sup>。繁殖期には地鳴きも組み合わせて騒がしく鳴く。警戒すると「ギャーッ」と鳴く<sup>3)</sup>。

## ● さえずりとは？

繁殖期にオスがメスにアピールするときや自分の縄張りを主張するときの鳴き声のこと。

## ● 地鳴きとは？

さえずり以外の普通の鳴き声のこと。

## ◆ 分布

世界では中国、モンゴル、ロシア東南部、朝鮮半島、日本に分布している。日本国内では、ほぼ全域に分布するが、沖縄県では数が少ない<sup>4)</sup>。

## ◆ 生態

人家周辺や農耕地でよく見られ、建造物の隙間や巣箱を利用して巣を作る<sup>1)</sup>。宮崎大学内(木花キャンパス)でも目にすることができる。特に牛舎周辺でよく見かける。雑食性で、植物の種子や果物、昆虫などを食べる。虫を探して地面を歩いていること

が多い<sup>2)</sup>。椋という木の実をよく食べるため椋鳥と呼ばれるようになったが、これに限らず食べ、餌の種類は幅広い。

繁殖期はつがいで生活する。産卵期は3～7月で、4～9個の濃い緑青色の卵を産む。卵は11～12日くらいでかえり、ひなは21日くらいで巣立ちする。

繁殖期が終わると群れで生活するようになる<sup>1)</sup>。日中は散らばっていた群れが夕暮れになると毎日同じ鉄塔や送電線に集まり、そこからねぐらの林へと一斉に飛び立つ。ねぐらでは数千羽から数万羽もの群れになる<sup>4)</sup>。



図2

フェンスに止まるムクドリたち  
(2017年2月加江田川撮影)

#### ◆ 参考文献

- 1) 声が聞こえる！野鳥図鑑（2014）/音声・文：上田秀雄 写真：叶内拓哉/文一総合出版
- 2) 山溪カラー名鑑 日本の野鳥（1985）/浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦/株式会社 山と溪谷社
- 3) 小鳥を庭に呼ぼう（2002）/狩野晋/成美堂出版
- 4) 野鳥の辞典（1966）/清棲幸保/東京堂出版